

HILTI

DD 200

Operating instructions

en

Mode d'emploi

fr

操作說明書

zh

取扱説明書

ja

사용설명서

ko

操作说明书

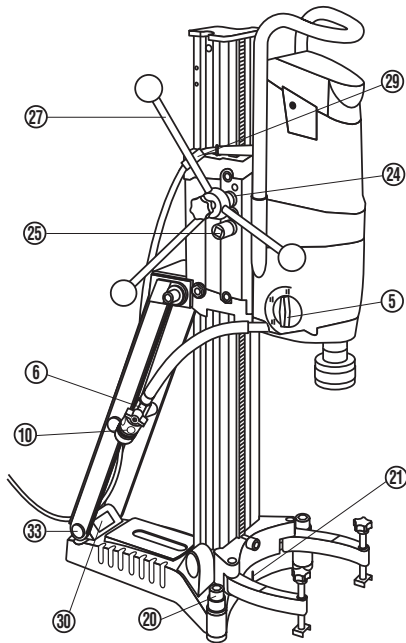
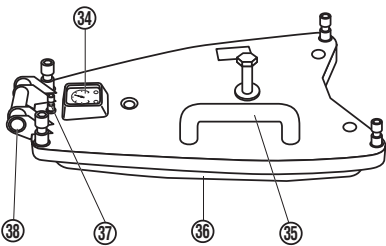
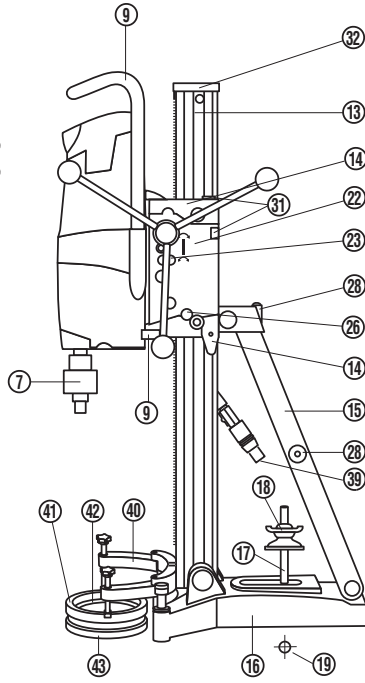
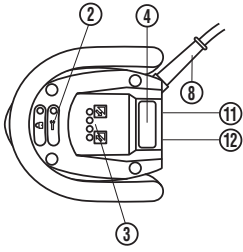
cn

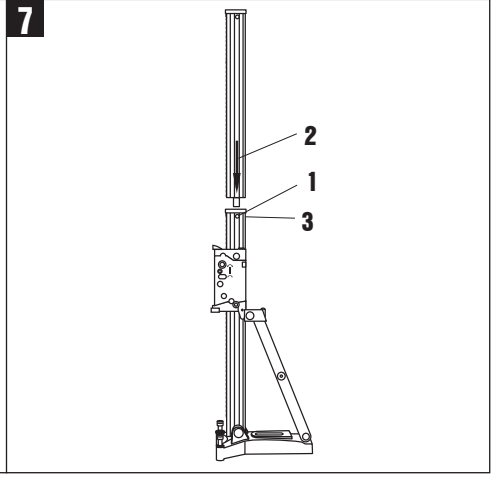
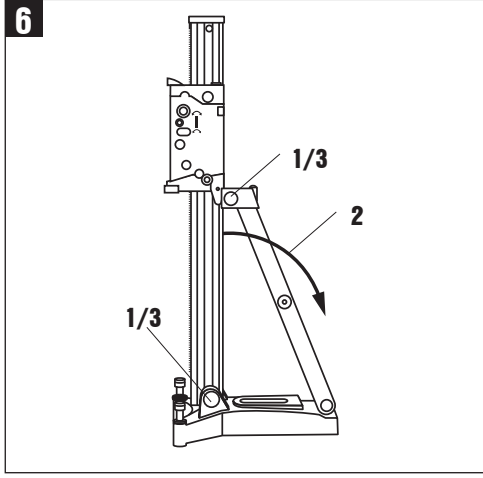
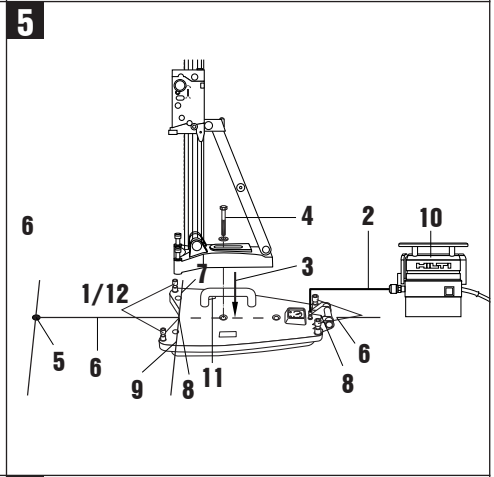
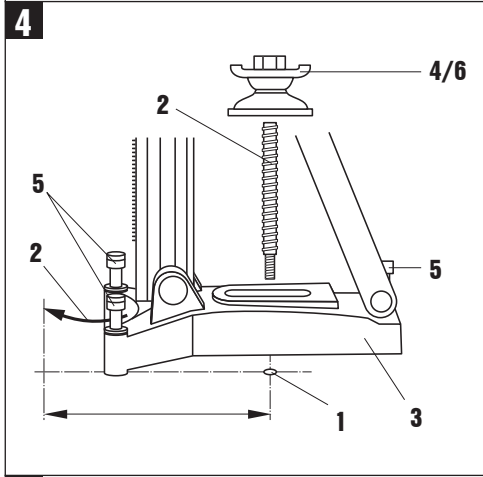
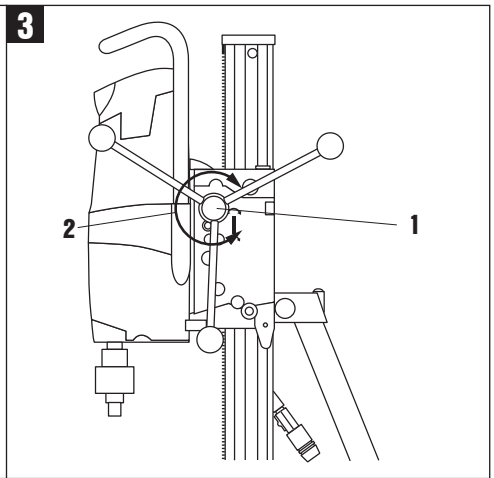
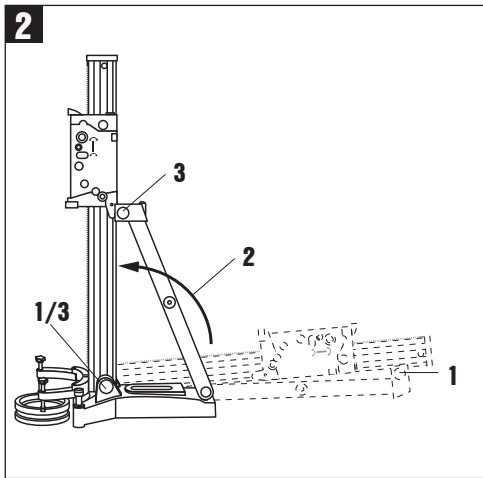
دليل الاستعمال

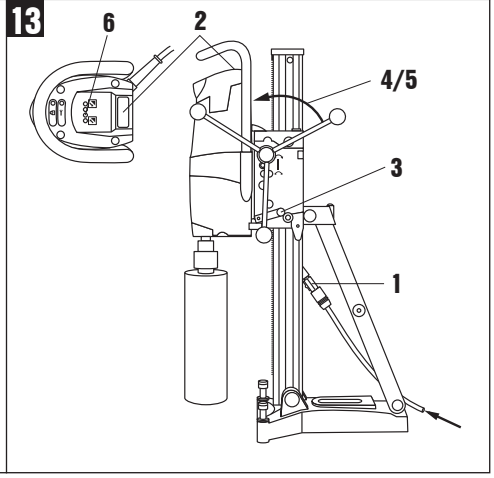
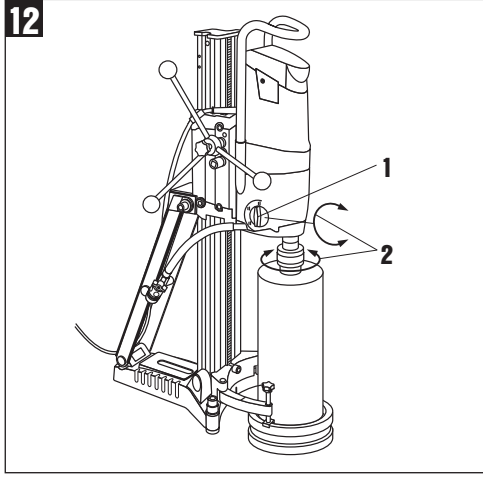
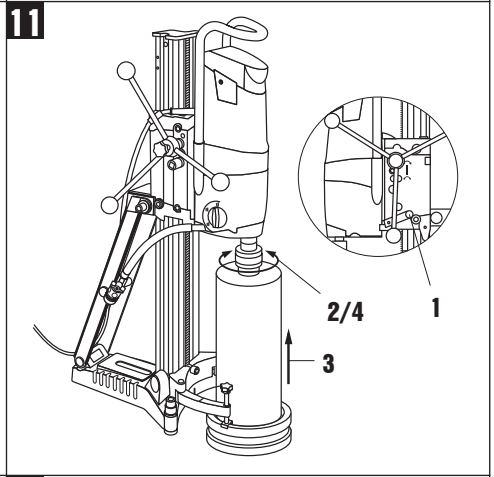
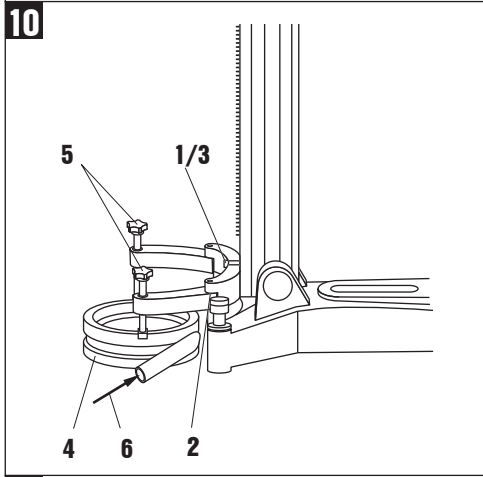
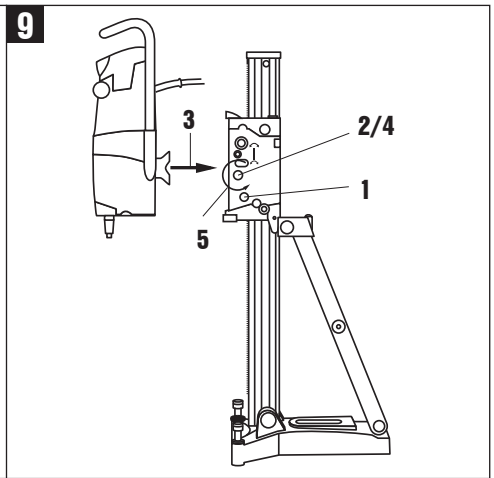
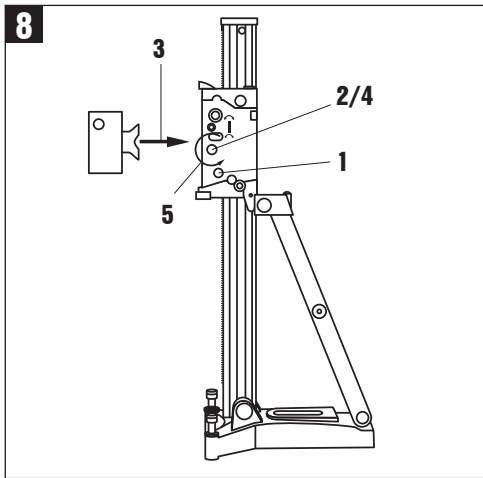
ar



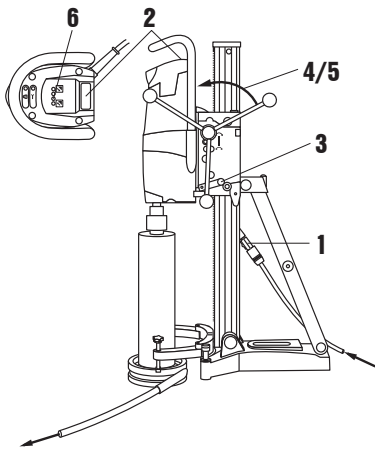
1



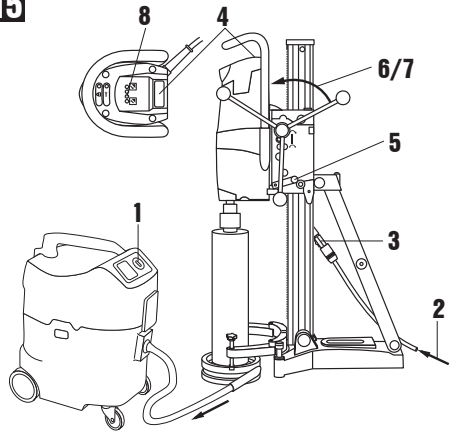




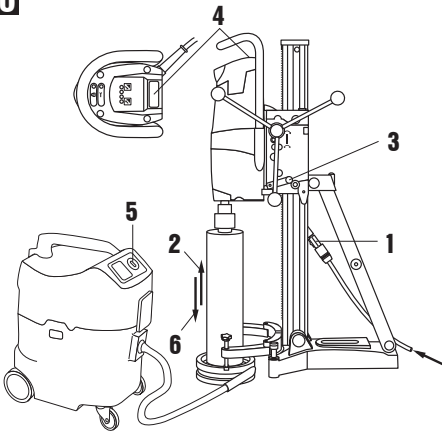
14



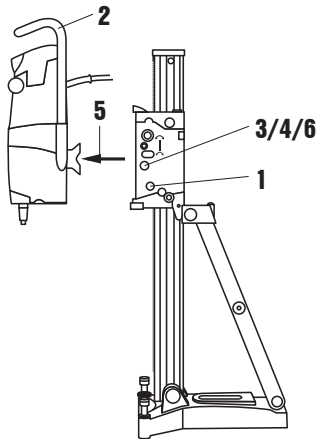
15



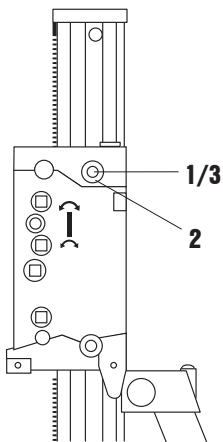
16



17



18



DD 200 ダイヤモンドコアドリル

ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

この取扱説明書は必ず本体と一緒に保管してください。

他の人が使用する場合には、本体と取扱説明書を一緒にお渡しください。

DD 200 の操作部／表示部名称 (本体とドリルスタンド) 1

本体

- ② サービスインジケータ
- ③ パワーインジケータ
- ④ ON/OFF スイッチ
- ⑤ ギア選択スイッチ
- ⑥ 給水コック
- ⑦ チャック
- ⑧ 漏電遮断機付き電源コード
- ⑨ キャリンググリップ (2 ×)
- ⑩ 給水コネクター
- ⑪ 銘板
- ⑫ 接続部

ドリルスタンド

- ⑬ コラム
- ⑭ エンドキャップ
- ⑮ ストラット
- ⑯ ベースプレート
- ⑰ クランピングスピンドル
- ⑱ クランピングナット
- ⑲ アンカー

- ⑳ ポジションインジケータ
- ㉑ キャリッジ
- ㉒ 本体ロックボルト (偏心ボルト)
- ㉓ ダイレクトドライブ
- ㉔ 減速ギア
- ㉕ キャリッジロック機構
- ㉖ ハンドル
- ㉗ キャリンググリップ
- ㉘ 電源コードガイド
- ㉙ 銘板
- ㉚ レベリングインジケータ (2 ×)
- ㉛ エンドストップ
- ㉜ ホイールアセンブリ取り付けポイント

アクセサリ

バキュームベースプレート

- ㉜ 圧力ゲージ
- ㉝ バキュームリリースバルブ
- ㉞ バキュームシール
- ㉟ バキュームホース
- ㊱ ホイールアセンブリ取り付けポイント

水流計

- ㊲ 水流計

水処理システム

- ㊳ ウォーターコレクターホルダー
- ㊴ ウォーターコレクター
- ㊵ シール
- ㊶ シール

1. 一般的な注意

1.1 表示とその意味

-危険-

この表記は、重傷あるいは死亡事故につながる危険性がある場合に注意を促すために使われます。

-警告事項-

この表記は、重傷あるいは死亡事故につながる可能性がある場合に注意を促すために使われます。

-注意-

この表記は、軽傷あるいは所持物の損傷が発生する可能性がある場合に使われます。

-注意事項-

この表記は、本製品を効率良く取り扱うための注意事項や役に立つ情報を示す場合に使われます。

1.2 記号

禁止表示



クレーンによる
搬送禁止

目次	頁
1. 一般的な注意	47
2. 製品の説明	49
3. アクセサリ	49
4. 製品仕様	49
5. 安全上の注意	50
6. ご使用前に	53
7. ご使用方法	58
8. 手入れと保守	59
9. 故障かな?と思った時	60
10. 廃棄	61
11. 本体に関するメーカー保証	62
12. EU 規格の準拠証明 (原本)	62

警告表示



一般警告事項



電気に関する
警告事項



高温に関する
警告事項

義務表示



保護メガネを
着用して
ください



保護
ヘルメットを
着用して
ください



耳栓を
着用して
ください



保護手袋を
着用して
ください



安全靴を
着用して
ください

略号



ご使用前に取扱
説明書をお読み
ください



リサイクル
規制部品です

A

電流

V

電圧

W

電力

Hz

周波数

min⁻¹

毎分回転数

~

交流

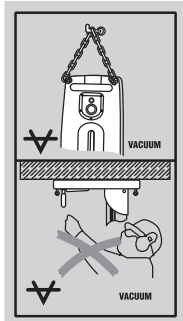
n₀

無負荷
回転数

∅

直径

バキューム ベースプレートに表示



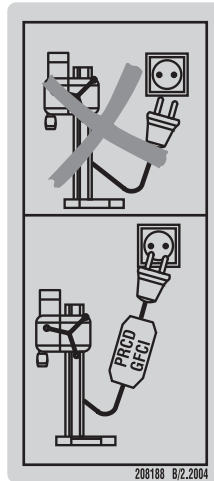
上図：
バキュームベースプレート
を接続して水平方向の穿孔
作業をする場合には、ドリ
ルスタンドを固定させるた
めの付加的な措置を施さな
ければなりません。

下図：
ドリルスタンドを使用した
上向き穿孔作業をする場
合には、バキュームベース
プレートを使用してはなり
ません。

本体に表示



天井への施工時には、湿式
バキュームクリーナーに接
続した水処理システムを必
ず使用してください。



必ず正常に作動する漏電遮断機を
使用してください。
(注意：日本向け仕様は、この形状と
異なっています。)

1 この数字は該当図を示しています。図は二つ折りの
表紙の中にあります。取扱説明書をお読みの際は、これ
らのページを開いてください。
この説明書で「本体」と呼ばれる工具は、常にダイアモ
ンドコアドリル DD 200 を指しています。

機種名・製造番号の表示箇所

機種名および製造番号は本体とドリルスタンドに貼られ
た銘板に表示されています。当データを御自身の取扱説
明書にメモ書きしておき、お問い合わせなどの必要な場
合に引用してください。

機種名： DD 200

製造番号：

機種名： DD-HD 30

製造番号：

2. 製品の説明

2.1 正しい使用

DD 200 と DD HD-30 は、ダイヤモンドコアビットにより「コンクリート、石材等」へ穴を開けるように設計された湿式ダイヤモンドコアドリルで、ドリルスタンドに固定して使用します（手持ちでは使用できません）。本体は必ずドリルスタンドに取り付けて使用し、ドリルスタンドはアンカーまたはバキュームベースプレートのいずれか適切な方法で固定します。

本体、ドリルスタンド、アクセサリーの加工や改造は許されません。怪我の可能性を防ぐため、必ずヒルティ純正のアクセサリーや先端工具のみを使用してください。

取扱説明書に記載されている使用、手入れ、保守に関する事項に留意してご使用ください。

ご使用になるアクセサリーの安全および操作上の注意事項にもご留意ください。

ベースプレートの調整作業を行う際には、衝撃の大きな工具（ハンマーなど）を使用しないでください。

本体、ドリルスタンド、アクセサリー、および先端工具の使用法を知らない者による誤使用、あるいは規定外の使用は危険です。

本機は、アースされた状態の、正しい電圧の電流から使用してください。

装置	コアビット	穿孔方向
水処理システムおよび湿式バキュームクリーナー付きシステム	Ø 25 ~ 250 mm	全方向
水処理システムおよび湿式バキュームクリーナーなしのシステム	Ø 25 ~ 400 mm	上向きは不可
水処理システム付きシステム	Ø 25 ~ 250 mm	上向きは不可

コアビット長さ：

直径 25 ... 250 mm: 430 mm

直径 52 ... 400 mm: 450 mm

天井への施工時には、湿式バキュームクリーナーに接続した水処理システムを必ず使用してください。

天井への施工時には、クイックリリース棒を使用しないでください。

健康を損なう恐れのある母材（アスベストなど）への穿孔は許されません。

この工具には、下記の内容の物がセットされています：

工具
取扱説明書

3. アクセサリー（品名および品番）

水流計	305939
デブスゲージ	305535
ウォーターコレクターホルダー	305536
延長コラム	305537
バキュームベースプレート	305538
バキュームポンプ	332158 ; 92053 (米国) ; 258373 (日本仕様)
スパーサー	305539
ホイールアセンブリ	305541
クランピングスピンドル	305940
クランピングナット	251834
ウォーターコレクター 25 ~ 162	232221
ウォーターコレクター 92 ~ 250	232243
ウォーターコレクター 8 ~ 87	232204
ハンドル	9843

ja

4. 製品仕様

ダイヤモンドコアドリル	DD 200					
定格電圧 *	100 V	110 V	220 V	230 V EU	230 V CH	240 V
定格電力 *		2300 W	2500 W	2600 W	2250 W	2600 W
定格電流 *	15 A	22.5 A	12.2 A	12.3 A	10 A	11.8 A
周波数	50/60 Hz	50 Hz	50/60 Hz	50/60 Hz	50 Hz	50 Hz
無負荷回転数 (回転 / 分)	320/640/1300 min ⁻¹		265/550/1120 min ⁻¹			
最大許容水圧	6 bar					
本体寸法 (長×幅×高)	630 × 150 × 173 mm					
重量 (本体)	13.9 kg					
重量 (ドリルスタンド)	18.3 kg					
穿孔長	延長シャフトなしで最大 500 mm					
保護対策必要度 EN/IEC 61029 準拠	クラス I (アースが必要)					

－注意事項－

本体は、お客様設備の商用電源への接続位置における最大許容回路インピーダンス Z_{max} が $0.363+j0.227 \Omega$ 以下であるという条件において、当該の標準規格に適合しています。

本体の設置者あるいは経営者の責任において、本体が必ずインピーダンスが Z_{max} 以下の接続位置に接続されていることを確認し、必要に応じて電力業者に照会してください。

－注意事項－

本説明書に記載されている振動レベルは、EN 61029に準拠した測定方法に基づいて測定したものです。電動工具を比較するのにご使用いただけます。振動負荷の暫定的な予測にも適しています。記載されている振動レベルは、電動工具の主要な使用方法に対する値です。電動工具を他の用途で使用したり、異なる先端工具を取り付けて使用したり、手入れや保守が十分でないまま使用した場合には、振動レベルが異なることがあります。このような相違により、作業時間全体で振動負荷が著しく高くなる可能性があります。振動負荷を正確に予測するためには、本体のスイッチをオフにしている時間や、本体が作動していても実際には使用していない時間も考慮しなければなりません。このような相違により、作業時間全体で振動負荷が著しく低くなる可能性があります。作業者を振動による作用から保護するために、他にも安全対策を立ててください。(例:電動工具や先端工具の手入れや保守を行う、手を冷やさないようにする、作業手順の計画を立てるなど)。

騒音／振動について(EN 61029-1)：

サウンドパワーレベル(L _{WA})：	105 dB (A)
サウンドプレッシャーレベル(L _{PA})：	92 dB (A)

耳栓を着用してください

EN 61029 に準拠、測定した上記騒音レベルの誤差は、3dB です。

ハンドル(クロスグリップ)での 3 軸の振動合計値(振動ベクトル合計) ah

コンクリートへの穿孔(湿式)	2.5 m/s ²
不確実性 K	1.5 m/s ²
ハンドルにかかる振動	< 2.5 m/s ²
不確実性 K	1.5 m/s ²

*この本体は様々な電圧仕様で製作しています。銘板に記載されている本体の定格電圧と定格電力の表示を確認してください。

5. 安全上の注意

注意：電気工具をご使用になる場合は、感電、怪我、および火災が起こらないように下記の基本安全処置を講じてください。

この電気工具をご使用になる前にすべての注意事項を最後までよくお読みになり、安全上の注意をしっかりと守ってください。

5.1 作業場の整理整頓



- 穴明け作業には現場責任者の許可が必要です。異形棒鋼の切断や構造体への穴明けは、建物や建築物に影響を及ぼすことがあります。
- 作業場の採光に十分配慮してください。
- 作業場の換気に十分配慮してください。
- 作業場の整理整頓に心がけてください。事故の原因となり得る危険物は作業区域から取り除いておいてください。作業場が整理整頓されていないと、事故を引き起こすことがあります。
- 天井面や壁面への貫通穴を開ける際には、コアが落下し損害、損傷を与える恐れがありますので、それぞれ下部または裏側の領域の安全確保に努めてください。
- 作業材料を固定します。作業材料を締め付ける時は、クランプあるいは万力を使用してください。この方が手で押さえるよりも確実であり、本体を両手で自由に操作することができます。
- 保護用具を使用してください。保護メガネを着用してください。
- 粉じんが発生する作業の場合は、防じんマスクを着用してください。
- 適切な作業着を着用してください。だぶだぶの衣服、ぼさぼさの長髪や装身具は、動作部に巻き込まれる恐れがありますので着用しないでください。長髪の場合は適当なかぶり物をしてください。
- 滑り止めのついた履き物やブーツを着用し、常に足場をしっかりと確保してください。
- 本体は子供の手の届かない所に置いてください。作業場には関係者以外の人を立ち入らせないでください。
- 作業関係者以外の人か、本体や延長コードに触れることがないようにしてください。
- 作業中は不安定な姿勢とはならないでください。足元を確かにし、常にバランスを保ちながら作業してください。
- 作業中の落下を防止するため、常に電源コード、延長コード、ウォーターホースが本体の背後にくるようにしてください。
- 電源コード、延長コード、吸引ホース、バキュームホースは回転部分から離してください。
- - 警告事項 - 穿孔を開始する前に、作業エリアに通電しているケーブルがないか点検してください。

- 作業中に埋設された電線、ガス管や水道管を損傷し、重大な事故を起こす場合があります。作業開始前には、前もって（金属探知機などで）現場調査を行ってください。例えば、作業中に誤って先端工具が電線に触れると、本体の金属部分とケーブルが通電する可能性があります。
- はしごに乗って作業しないでください。

5.2 一般的な安全対策



- 用途に合った工具をご使用ください。本体を本来の目的以外には使用しないでください。必ず、指示にしたがひ、不具合のない状態で使用してください。
- 取扱説明書に記されたヒルティ純正の付属品、アクセサリのみを使用してください。取扱説明書に指定されていない付属品やアクセサリを使用されると、怪我の原因となります。
- 周囲状況を考慮してください。本体を雨、雪にさらさないでください。また本体が湿った状態あるいは濡れた状態で使用しないでください。火災や爆発の恐れがあるような状況では、本体を使用しないでください。
- 本体、特にグリップ表面は乾燥させ、清潔に保ち、オイルやグリスで汚さないようにしてください。
- 本体に負荷をかけ過ぎないでください。規定の出力範囲で十分に効率的で安全な作業が可能です。
- 決して本体を放置しないでください
- 本体を使用しない時には安全な場所に保管してください。未使用時には、本体を乾いた高い場所に施錠し、子供が触れない状態で保管してください。
- 不意に始動しないようにしてください。プラグをコンセントに差し込む時には ON/OFF スイッチがオフになっていることを確認してください。
- 未使用時には、常に本体の電源コードをコンセントから抜いておいてください。例えば、仕事の合間、手入れや保守を行う時、先端工具の交換時、等。
- ご使用前には毎回、漏電遮断機を点検してください。
- 先端工具は慎重に手入れしてください。より良く確かな作業を行うために、先端工具に溜まった汚れや埃を拭き取ってください。
- 本体とアクセサリに不具合がないか点検してください。本体を続けて使用する前に、安全装置および損傷している箇所が少しでもある場合は、作業に影響を及ぼすことなく規定どおりの機能を発揮できることを確認する必要があります。可動部分がスムーズに回転し、動きに硬さがないか、あるいはパーツに不具合がないか点検してください。使用する先端工具がチャック内にはしっかりと固定されて、本体が支障なく作動するための条件が整っているか確認してください。安全装置やパーツに不具合があり、取扱説明書に解決方法が明記されていない場合は、弊社指定専門工場に適切な修理／交換を依頼してください。
- ノロに皮膚が触れないようにしてください。

- 塵埃が発生する作業の場合は（乾式穿孔など）防じんマスクを使用してください。集じん装置を接続してください。健康を損なう恐れのある母材（アスベストなど）への穿孔は禁止されています。
- **本体は、子供や体の弱い人が指示を受けずに使用するには向いていません。**
- **本体で遊んではいけないことを子供に伝えてください。**
- 含鉛塗料、特定の種類の木材、鉱物、金属などの母材から生じた粉じんは、健康を害する恐れがあります。作業中や近くにいる人々が粉じんに触れたり吸い込んだりすると、アレルギー反応や呼吸器疾患を起こす可能性があります。カシやブナ材などの特定の粉じんは、特に木材処理用の添加剤（クロム塩酸、木材保護剤）が使用されている場合、発ガン性があるとされています。アスベストが含まれる母材は、必ず専門家が処理を行うようにしてください。できるだけ集じん装置を使用してください。集じん効果を高めるには、当電動工具に適したヘルティ推奨の木材/鉱物粉じん用移動式集じん機を使用してください。作業場の換気に十分配慮してください。フィルタークラスP2の防じんマスクの着用をお勧めします。処理する母材について、各国で効力を持つ規定を遵守してください。

5.2.1 機械的な危険



- 取扱説明書に記述された手入れ、保守に関する指示に従ってください。
- 使用する先端工具がチャック機構に適合し、チャック内にしっかりと固定されていることを確認してください。
- 不適切な先端工具を使用すると制御不能になり、負傷の危険があります。
- 本体がドリルスタンドに正しく固定されていることを確認してください。
- 回転部分には触れないでください。
- すべてのクランピングスクリューが正しく締め付けられていることを確認してください。
- 延長コラムを取り外した後は、エンドキャップ（エンドストップ内蔵）をドリルスタンドに再び取り付けてください。エンドキャップを取り付けないと、安全に関わるエンドストップ機能が正しく作動しません。
- ご使用になる前に、すべてのコアビットが正しい状態にあるか点検してください。変形あるいは損傷したコアビットは使用してはなりません。

5.2.2 電気的な危険



- 感電の恐れがあります。アースされたパイプ、ラジエーター、電子レンジ、冷蔵庫などに体が接触しないようにしてください。

- 本体の電源コードは定期的に点検し、損傷がある場合は弊社認定のスペシャリストに交換を依頼してください。延長コードを定期的に点検し、損傷している場合は交換してください。
- 本体とアクセサリーに不具合がないか点検してください。本体とアクセサリーについて、破損が明らかな場合や不具合のある場合、また制御不良の場合は、本体とアクセサリーを使用しないでください。
- 作業中、損傷した電源コード、延長コードには触れないでください。不意に始動しないように電源コードをコンセントから抜きます。
- 損傷したスイッチは、ヒルティリペアセンターで修理してください。スイッチをオンオフできない場合は使用しないでください。
- 本体の修理は訓練された修理スペシャリスト（ヒルティリペアセンター）のみが、純正のパーツを使用して行うことができます。その他の方が修理しますと、事故の危険がともないます。
- 電源コードを本来の目的以外に使用しないでください。決して電源コードを持って本体を持ち運ばないでください。電源コードをコンセントから抜く時は、コードを引っ張らないでください。プラグを握って抜いてください。
- 電源コードを火気、オイル、鋭利な刃物等に触れる場所に置かないでください。
- 屋外工事の場合には、認可マーク付きの専用延長コードのみを使用してください。
- 停電時：本体の電源をオフにしてプラグをコンセントから抜いてください。
- マルチソケット付延長コードに複数の装置を接続して同時に作動させることはお止めください。
- 本体を、濡れた状態や泥が付着したままの状態に使用しないでください。本体表面に泥や水分が付くと本体の保持が困難となり、時に感電の恐れがあります。したがって特に伝導性のある母材に対して作業を頻繁に行う場合は、定期的にヒルティリペアセンターに本体の点検を依頼してください。
- 本体を作動させる場合は、必ず同梱の漏電遮断機を使用してください（GBバージョンには必ず絶縁変圧器を使用のこと）。ご使用前には毎回、漏電遮断機を点検してください。

5.2.3 熱の危険性



- 使用中に先端工具が高温になる場合があります。先端工具の交換時には、保護手袋を着用してください。

5.3 使用者に留意して頂くこと

- 本体はプロ仕様で製作されています。
- 本体の使用、保守、修理を行うのは、認定、訓練された人のみに限ります。これらの人は、遭遇し得る危険に関する情報を入手していなければなりません。
- 注意深く作業を進め、十分に集中できない時は本体を使用しないでください。
- 休憩を取って緊張をほぐし、指を動かして血の巡りを良くするように心がけてください。

5.4 個人保護用具

- 本体使用中、作業者および現場で直近に居合わせる人々は保護メガネ、保護ヘルメット、耳栓、保護手袋、安全靴を着用しなければなりません。



保護メガネを着用してください



保護ヘルメットを着用してください



耳栓を着用してください



保護手袋を着用してください



安全靴を着用してください

ja

6. ご使用前に



－注意事項－

主電源電圧は銘板の記載と一致していなければなりません。

本体を主電源から取り外してください。

6.1 延長コードを使用する場合

使用の目的に応じて、十分な導体断面積をもつ適切な延長コードのみを使用してください。

推奨する最低導体断面積および最大コード長：

主電源電圧	導体断面積					AWG
	mm ²					
導体断面積	1.5	2.0	2.5	3.5	14	12
100 V	不可	不可	不可	25 m	不可	－
110-120 V	不可	不可	20 m	－	不可	75 ft
220-240 V	30 m	－	50 m	－	－	－

導体断面積が 1.25 mm² で 16 AWG 以上の延長コードは使用しないでください。

6.2 発電機、変圧器を使用する場合

当本体は下記の条件を満たした場合、発電機および変圧器で使用することができます。

- － AC 電源、出力は 4000 VA 以上。
- － 作動電圧は常時、定格電圧の +5% ~ -15% 以内。
- － 周波数は 50 ~ 60 Hz : 65 Hz を超えないこと。
- － スタート時増幅機能付き自動電圧調整器。

他の電動工具を、同時に同じ変圧器、発電機で使用しないでください。他の工具を、同時にスイッチ オン/オフすることにより、電圧降下あるいは過電圧が発生し、本体に損傷を与えることがあります。

6.3 準備作業

－注意－

- － 本体、ダイヤモンドコアビット、およびドリルスタンドは重いので注意してください。身体の一部が挟まれる危険があります。保護ヘルメット、保護手袋、安全靴を着用してください。

6.3.1 ドリルスタンドの組み立て 2

－注意事項－

搬送用にドリルスタンドが折り畳まれている場合は、以下の手順で作業します。

1. ストラット上部とコラムピボット下部のネジを緩めます。
2. コラムを垂直に立てます。
(これ以上いかないところまで)
3. ストラット上部とコラムピボット下部のネジを締め付けます。

－注意事項－

コラムの端部にはエンドキャップが装着されていなければなりません。エンドキャップは保護とエンドストップの役割を果たします。

6.3.2 ハンドルの取り付け 3

－注意事項－

ハンドルはキャリッジの左側か右側、2本の軸のどちらかに取り付けることができます。上部の軸はキャリッジを直接駆動し、下部の軸は減速ギアによりキャリッジを駆動します。

1. ハンドルをキャリッジの左側か右側、2本の軸のどちらかに挿入します。
2. ハンドルをネジでしっかりと固定します。

6.3.3 アンカーでドリルスタンドを固定 4

－警告事項－

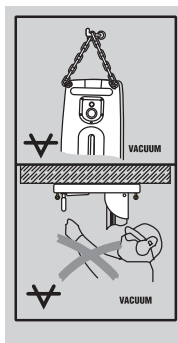
母材に適したアンカーを使用し、アンカーメーカーの取り付け指示にしたがってください。

－注意事項－

ビルディ金属系打込みアンカー M16 は、一般にダイヤモンドコア抜き具の砕かれていないコンクリートへのファスニングに適しています。しかしながら、特定の条件下では別のファスニング方法が必要となることもあります。確実なファスニングについては、弊社営業担当またはビルディ代理店・販売店までお問い合わせください。

1. 穿孔中心から 330 mm または 13 インチ（理想的な数値）離れた位置に、母材に適したアンカーを打ち込みます。
2. アンカーにクランピングスピンドル（アクセサリ）を捻じ込みます。
3. スピンドルを介してドリルスタンドを取り付け、ポジションインジケータによりドリルスタンドの位置を調整します（スペーサー（アクセサリ）を使用すると、ポジションインジケータを使用せずにドリルスタンドの位置を調整できます）。
4. クランピングナットをスピンドルに取り付けます。但し、ナットを一杯には締め付けしないでください。
5. 3 本のレベル調整スクリューを用いてベースプレートを水平にします。その際は、キャリッジの 2 つの水準器でベースプレートが水平かどうかを確認します。レベル調整スクリューが確実に母材と接触していることを確認してください。
6. 口径 27 のオープンエンドレンチを用いて、クランピングスピンドル上のクランピングナットを締め付けます。これに代えて、後方のレベル調整スクリューを締め付けることもできます。作業を容易にするために、ストラットを折り畳むことができます。
7. ドリルスタンドが確実に固定されていることを確認してください。

6.3.4 バキュームベースプレート（アクセサリ）でドリルスタンドを固定 5



－注意－

水平穿孔の際は、ドリルスタンドをチェーンを使用して固定する必要があります。

バキュームベースプレートのみを取り付けた状態での上向き穿孔作業は許可されません。

－注意－

バキュームベースプレートを固定する母材を点検してください。表面が均一でなくざらざらしていると、真空固定の効果は著しく低下します。層構造の表面やコーティングが施されている表面は、作業中に脱落してしまう危険があります。

－注意－

直径 300 mm 以下のコアビットのみを使用してください。スペーサーを使用しないでください。

－注意事項－

バキュームベースプレートのグリップにはバキュームリリースバルブが装着されており、ここからバキュームをリリースすることができます。

1. 4 個のレベル調整スクリューを緩め、バキュームベースプレートの約 5 mm 下まで突出させます。
2. バキュームホースをバキュームベースプレートとバキュームポンプの間に接続します。
3. ドリルスタンドをバキュームベースプレートの上に置きます。
4. 同梱のネジをワッシャーと一緒に取り付けます。
5. 穴明け箇所の中心を決めます。
6. 穴明け箇所の中心からドリルスタンドを立てる方向に向かって約 800 mm の線を引きます。
7. 800 mm の線上で穴明け箇所の中心から 165 mm のところにマークをつけます。
8. バキュームベースプレートのマークを 800 mm の線の上にそれぞれ合わせます。
9. バキュームベースプレートの先端の中心を 165 mm の位置のマークに合わせます。

－注意事項－ バキュームポンプを使用する前に取扱説明書をよくお読みになり、その指示に従ってください。

10. バキュームポンプをスイッチオンにして、バキュームリリースバルブを押します。
11. ドリルスタンドの位置合わせが正しくない場合、バキュームリリースバルブを外して、ドリルスタンドを母材に向かって押します。

－注意－ 穿孔前および穿孔中に、圧力ゲージの指針がグリーン帯の内から出ないようにしなければなりません。

12. 4 個のレベル調整スクリューを用いてバキュームベースプレートを水平にします。レベル調整には、キャリッジに付いている 2 個のレベルインジケータが役立ちます。
注意：アンカーベースプレートをバキュームベースプレート上でレベル調整することはできません。
13. 水平方向の穿孔作業には更に固定措置を施してください。（例：アンカーにチェーンを繋ぐ）
14. ドリルスタンドが確実に固定されていることを確認してください。

6.3.5 ドリルスタンドの穿孔角度調整（最大 45° まで調整可能）6

－注意－

回転エリアで指を挟まれないように注意してください。保護手袋を着用してください。

1. コラムピボット下部とストラット上部のネジを緩めます。
2. コラムをご希望の位置に合わせます。これには、裏側の角度スケールが役立ちます。
3. 両方のネジをしっかりと締め付けます。

6.3.6 コラムの延長（アクセサリー） 7

－注意－

穿孔には、コアビットあるいは全長が 650 mm を超えるエクステンションは使用しないでください。

1. コラムの上端のエンドキャップ（エンドストップ内蔵）を外して、延長コラムを取り付けます。
2. 延長コラムのシリンダーをドリルスタンドのコラムに挿入します。
3. ロッキングボルトを回して延長コラムを固定します。
4. デプスゲージ（アクセサリー）を補助エンドストップとしてコラムで使用することができます。
5. 延長コラムを取り外した後は、エンドキャップ（エンドストップ内蔵）をドリルスタンドに再び取り付けてください。エンドキャップを取り付けないと、安全に関わるエンドストップ機能が正しく作動しません。

6.3.7 スペーサーの取り付け（アクセサリー） 8

－注意事項－

直径 300 mm 以上のダイヤモンドコアビットを使用する場合は、スペーサーを取り付けて、ドリル軸とドリルスタンド間の間隔を広げる必要があります。ポジションインジケータをスペーサーと一緒に使用することはできません。

これらの指示は、本体が取り付けられていないことを前提としています。

1. コラムの正しい位置にキャリッジをロックします。キャリッジは、ロックピンがかみ合っていればロックされています。ハンドルを軽く回してロックを確認してください。この位置では、キャリッジは動かなくなります。
2. 本体ロックボルトを外します。
3. キャリッジにスペーサーを取り付けます。
4. ロッキングボルトをキャリッジに一杯まで押します。
5. ロッキングボルトを締め付けます。

6.3.8 ドリルスタンドに本体を装着 9

－注意事項－

本体の接続を主電源から外します。

1. コラムの正しい位置にキャリッジをロックします。キャリッジは、ロックピンがかみ合っていればロックされています。ハンドルを軽く回してロックを確認してください。この位置では、キャリッジは動かなくなります。
2. 本体ロックボルトを外します。
3. 本体をキャリッジまたはスペーサーに取り付けます。
4. ロッキングボルトをキャリッジまたはスペーサーに一杯まで押します。
5. ロッキングボルトを締め付けます。
6. キャリッジカバーの電源コードガイドに電源コードを固定します。
7. 本体が確実に固定されていることを確認してください。

6.3.9 給水コネクターの取り付け

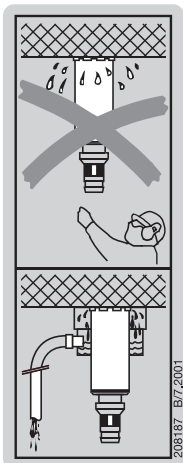
1. 本体の給水コックを閉めます。
2. ホースコネクタに給水ホースを接続します。

－注意事項－

本体の給水ホースとホースコネクターの間に水流計（アクセサリー）を取り付けることができます。

－注意－

定期的にホースに損傷がないか点検し、最大許容給水圧が 6 bar を超えないことを確認してください。



6.3.10 水処理システムの取り付け（アクセサリー） 10

－注意事項－

水処理システムの使用でコアビットから水を除去するため、周辺を汚すことがありません。直径 250 mm 以下のコアビットを使用して作業する場合には、基本的に水処理システムの使用をお勧めします。湿式バキュームクリーナーと組み合わせると最上の結果が得られます。天井への施工時には、湿式バキュームクリーナーに接続した水処理システムを必ず使用してください。ドリルスタンドは作業面に対し 90° に設置しなければなりません。シールを使用するダイヤモンドコアビットの直径に合わせる必要があります。

1. ドリルスタンドのネジ（コラム下部の前側）を緩めます。
2. ウォーターコレクターホルダーを下から、ネジの裏側に移動させます。
3. ネジをしっかりと締め付けます。
4. ウォーターコレクターをホルダーの 2 個の可動アームの間に取り付けます。
5. ウォーターコレクターを 2 個のネジでホルダーに固定します。
6. ウォーターコレクターに湿式バキュームクリーナーを接続します。あるいは排水が行えるようにコネクタにホースを接続します。

6.3.11 デプスゲージの調整（アクセサリー）

1. ハンドルを回してコアビットを母材に当てます。
2. ご希望の穿孔長に合わせて、キャリッジとデプスゲージ間の距離を調整します。
3. デプスゲージをクランピングスクリューで固定します。

6.3.12 ダイヤモンドコアビットの取り付け (ヒルティ BL チャックを使用)



-危険-

損傷した先端工具は使用しないでください。先端工具を使用する際は、その都度まず折損や亀裂、摩損あるいは激しい摩耗のないことを確認してください。損傷した先端工具は使用しないでください。作業材料や折れた先端工具の破片が飛散して、作業場外の人員にも負傷を負わせる恐れがあります。

-注意事項-

切断性能あるいは穿孔能力の低下が認められるようになったら、ダイヤモンドコアビットは直ちに交換する必要があります。一般的に、ダイヤモンドセグメントの高さが2 mm 未満になったらダイヤモンドコアビットを交換する必要があります。

— 注意 —

コアビットの取り付けや位置決めが正しく行われていないと、部品が破損したり外れて飛び出したりする危険があります。コアビットが正しく取り付けられているか点検してください。

— 注意 —

— 先端工具は使用時または研磨時に高温になる場合があります。手に火傷を負う場合があります。
先端工具の交換時には、保護手袋を着用してください。

1. コラムの所定位置にキャリッジをロックし、ドリルスタンドが確実に固定されていることを確認します。

2. チャックをオープンマークの方向に回して開きます。
3. ダイヤモンドコアビットのコネクションエンドを、下から本体のチャックに挿入し、ギアが噛み合うまで押し込みます。
4. チャックをクローズマークの方向に回して閉めます。
5. ダイヤモンドコアビットがチャックに確実に取り付けられているか点検します（コアビットを引っ張り、前後左右に動かしてみます）。

6.3.13 穿孔速度の選択

— 注意 —

本体作動中にギアを切り替えないでください。回転が止まるまでお待ちください。

1. ご希望のコアビット径に応じてギアを選択します。
2. コアビットを手で回しながら、ギア選択スイッチをご希望の位置に合わせます。

7. ご使用方法



—注意—

- 本体および穿孔作業は騒音を発生させます。過剰な騒音で聴力の低下を招く場合もあります。耳栓を着用してください。
- 穿孔作業で危険な破片を飛散させることがあります。破片が身体の一部、眼などを傷つけることもあります。保護メガネと保護ヘルメットを着用してください。
- コアビットの取扱いの際は、鋭いエッジで負傷することのないように保護手袋を着用してください。
- 滑りやすい足場での負傷を防止するために滑りにくい靴を着用してください。

7.1 漏電遮断機をオンにして点検します

(GB 仕様では絶縁変圧器を使用します)

1. 本体の電源プラグをアース接続部付きコンセントに差し込みます。
2. 漏電遮断機の「ON」ボタンを押します。(インジケータ一点灯)
3. 漏電遮断機の「TEST」ボタンを押します。(インジケータ消灯)

—危険—

インジケータが消灯しない場合、本体を使いつづけてはいけません。本体の修理は必ず認定サービスセンターにお申し付けください。また、必ず純正部品を使用してください。

4. 漏電遮断機の「ON」ボタンを押します。(インジケータ一点灯)
(日本向仕様は異なります)

7.2 コアビット径と対応するギア

ギア	コアビット径
1	152–400 mm (6" – 16")
2	82–162 mm (3 ¹ / ₄ " – 6 ³ / ₈ ")
3	25– 82 mm (1" – 3 ¹ / ₄ ")

鉄筋で硬く強化されたコンクリートあるいは硬度が非常に高いコンクリート（フリントコンクリートあるいは高性能コンクリートなど）では、特に低速穿孔する場合、直径 82 mm あるいは 152 ~ 162 mm のものをご使用になるよう推奨します。

7.3 水処理システムおよび湿式バキュームクリーナーを使用しない場合の本体の操作

—注意事項—

水が流れ出るのを抑えることができません。上向きの穿孔作業は許可されません！

—注意—

水が本体にかかることのないよう十分ご注意ください。

7.3.1 スイッチオン

1. 給水コックを、ご希望の水量に達するまで開きます。
2. 本体の ON/OFF スイッチを「I」の位置まで押します。
3. キャリッジロックを解除します。
4. ハンドルを回してコアビットを母材に当てます。
5. 穿孔開始時には少しの圧力しかコアビットに加わらないようにします。その後ビットの中心が定まったら増圧してください。
6. パワーインジケータに応じて圧力を調整してください。(ディスプレイで緑のランプが点灯していれば、理想的な穿孔パワーが得られています)。

ja

7.4 水処理システムを使用した場合の本体の操作 (アクセサリ)

—注意事項—

ホースから水が流れ出ます。上向きの穿孔作業は絶対にしないでください！

—注意—

水が本体にかかることのないよう十分ご注意ください。

7.4.1 スイッチオン 14

1. 給水コックを、ご希望の水量に達するまで開きます。
2. 本体の ON/OFF スイッチを「I」の位置まで押します。
3. キャリッジロックを解除します。
4. ハンドルを回してコアビットを母材に当てます。
5. 穿孔開始時には少しの圧力しかコアビットに加わらないようにします。その後ビットの中心が定まったら増圧してください。
6. パワーインジケーターに応じて圧力を調整してください。(ディスプレイで緑のランプが点灯していれば、理想的な穿孔パワーが得られています)。

7.5 水処理システムと湿式バキュームクリーナーを使用した場合の本体の操作 (アクセサリ)

—注意事項—

斜め上方への穿孔作業は行えません (ウォーターコレクターが正常に作動しません)

上向きの穿孔作業時にはコアビットが水で満たされます。

—注意—

水があふれて本体まで流れないように注意してください。

—注意事項—

湿式バキュームクリーナーは穴明け前に手動でスイッチオンにし、穴明け終了後も手動でオフにしてください。

7.5.1 スイッチオン 15

1. 湿式バキュームクリーナーをオンにします。オートマチックモードは使用しないでください。
2. 給水ホースを接続します。
3. 給水コックを開きます。
4. 本体の ON/OFF スイッチを「I」の位置まで押します。
5. キャリッジロックを解除します。
6. ハンドルを回してコアビットを母材に当てます。
7. 穿孔開始時にはコアビットへの圧力を少なくします。その後ビットの中心が定まったら増圧してください。
8. パワーインジケーターに応じて圧力を調整してください。(ディスプレイで緑のランプが点灯していれば、理想的な穿孔パワーが得られています)。

7.6 スイッチオフ 16

1. 給水コックを閉じます。
2. ダイヤモンドコアビットを穴から引き出します。上向きの穿孔作業時の注意：上向きの穿孔作業ではダイヤモンドコアビットに水が溜まっています。作業を終了する時には、まず水を慎重に流し出してください。給水ホースを本体のコネクターから外し、給水コックバルブを開いて水を排出します (水流計を通さないこと)。水が本体にからまないようにしてください。
3. キャリッジロックをかみ合わせます。キャリッジは、ロックピンがかみ合っていればロックされています。ハンドルを軽く回してロックを確認してください。この位置では、キャリッジは動かなくなります。
4. 本体スイッチをオフにします。
5. 湿式バキュームクリーナーのスイッチをオフにします (使用した場合)。
6. コアビットを作業面に接触するまで下げるか、ポジションインジケーター (バキュームベースプレート使用時を除く) を折り畳むことにより、ドリルスタンドの安定度を高めます。
7. 必要な場合はコアをコアビットから取り外します。

7.7 ドリルスタンドから本体を取り外す 17

—注意事項—

本体の接続を主電源から外します。

1. コラムの正しい位置にキャリッジをロックします。キャリッジは、ロックピンがかみ合っていればロックされています。ハンドルを軽く回してロックを確認してください。この位置では、キャリッジは動かなくなります。
2. 片方の手で本体のキャリッジグリップを保持します。
(—注意— 保持しないと本体がドリルスタンドから落ちることがあります)
3. 本体ロッキングボルトを緩めます。
4. ロッキングボルトを外します。
5. 本体をキャリッジから取り外します。
6. ロッキングボルトをキャリッジに一杯まで押します。

7.8 ノロの廃棄

10 章「廃棄」を参照してください。

7.9 コアビットが噛んだ場合

コアビットが噛んだ場合、本体がオフになるまでスリックラッチが作動します。コアビットは以下の手順で取り外すことができます。

オープンエンドレンチを使ってコアビットを外す

1. 不意に始動しないように電源コードをコンセントから抜きます。
2. コネクションエンド付近で適したオープンエンドレンチを使ってコアビットをはさみ、コアビットを回しながら外します。
3. 本体の電源コードをコンセントに差し込みます。
4. 穿孔を続けます。

ハンドルを使ってコアビットを外す

1. 不意に始動しないように電源コードをコンセントから抜きます。
2. ハンドルを使ってコアビットを母材から外します。
3. 本体の電源コードをコンセントに差し込みます。
4. 穿孔を続けます。

7.10 搬送および保管



- 注意 -

- 本体、ドリルスタンド、ダイヤモンドコアビットは別々に運んでください。
- 搬送を楽にするにはホイールアセンブリー（アクセサリ）をご使用ください。
- 本体を保管する前に給水コックを開いてください。特に温度が氷点下になった場合、本体に水分が残っていないことを確認してください。

ja

8. 手入れと保守

不意に始動しないように電源コードをコンセントから抜きます。

先端工具と金属部品の手入れ

先端工具とチャックの表面に付着した汚れを取り除きます。時折、油を染みこませた布で表面を磨いて腐食から守ってください。

8.1 本体の手入れ

- 注意 -

本体、特にグリップ表面を乾燥させ、清潔に保ち、オイルやグリスが付着していないようにしてください。洗剤、磨き粉等のシリコンを含んだ清掃用具は使用しないでください。

本体の外側ボディは、耐衝撃性プラスチックで作られています。グリップ部分は合成ゴムを使用しています。

通気溝が覆われた状態で本体を使用しないでください。通気溝を乾いたブラシを使用して注意深く掃除してください。本体内部に異物が入らないようにしてください。定期的に、少し湿した布で本体表面を拭いてください。スプレーやスチームあるいは流水などによる清掃は避けてください。電気上の安全面に悪影響が出る可能性があります。

8.2 保守

本体の全ての表面パーツに損傷がないか、また全ての装置が支障なく作動するか定期的に確認してください。パーツが損傷していたり、装置が正しく作動しない場合は、本体を使用しないでください。修理が必要な際は、弊社営業担当またはヒルティ代理店・販売店にご連絡ください。

本体の電気系統部分の修理は訓練された修理スペシャリストのみができます。

8.3 カーボンブラシの交換

カーボンブラシの交換が必要になると、レンチシンボル付きのインジケータータランプが点灯します。



以下の注意事項を守らないと、危険な高電圧に触れる恐れがあります。本体の使用、保守、修理を行うのは、認定、訓練された人のみに限ります。これらの人は、遭遇し得る危険に関する情報を入手していなければなりません。

1. 本体を主電源から切り離します。
2. 本体の左右のカバーを開きます。
3. 本体から使用中のカーボンブラシを取り出します。この時、カーボンブラシの取り付け状態に注意してください。
4. 新しいカーボンブラシを、前と同じ状態になるように取り付けます。
交換部品番号 100 ~ 127 V : 279 526
5. 本体の左右のカバーを閉めます。

8.4 コラムとキャリッジ間の遊びの調整 18

キャリッジの4個のロッキングボルトでコラムとキャリッジ間の遊びを調整することができます。

図に示した4個のローラーは調整可能です。本体をスタンドから取り外し、ハンドルを回してキャリッジをコラム上部まで動かします。4個の調整式ローラーを以下のように調整します。

1. 六角ソケットレンチ（サイズ 5）を使用してロッキングスクリューを少し緩めます。（外さないこと）
2. オープンエンドレンチ（サイズ 19）を使用してロッキングボルトを回し、ローラーを軽くコラムに押し付けます。
3. ロッキングスクリューを締め付けます。
4. 点検：最適に調整されていると、キャリッジは自然に留まります。本体を取り付けると、キャリッジは下方に移動します。

8.5 手入れと保守を行った後の点検

手入れと保守を行った後は機能テストを行ってください。

9. 故障かな？と思った時

症状	考えられる原因	処置
本体が始動しない	主電源が供給されていない	別の電動工具をつなぎ、作動するか確認する。 プラグ接続、電線、漏電遮断機、主電源ヒューズを点検する
	カーボンブラシがオフになっている	修理スペシャリストに点検を依頼し、 必要な場合には交換する
	電源コードあるいはプラグの故障	修理スペシャリストに点検を依頼し、 必要な場合には交換する
	スイッチの故障	修理スペシャリストに点検を依頼し、 必要な場合には交換する
モーターは作動するが、 ダイヤモンドコアビットが 回転しない	ギヤ選択スイッチが噛み合っていない	ギヤ選択スイッチを噛み合うまで操作する
	ギヤ部の故障	ヒルティリペアセンターに本体の修理を依頼する
穿孔速度が低下する	ダイヤモンドコアビットの目つぶれ	ダイヤモンドコアビットを研磨プレートで 水を流しながら研ぐ
	ダイヤモンドコアビットの目つぶれ	コアビットの仕様が正しくない。 ヒルティに連絡して指示を受ける
	水圧／水量が過大	給水コックで水量を減らす
	コアがダイヤモンドコアビット内で 引っ掛かっている	コアを外す
	最大穿孔長に達している	コアを外し、コアビット延長シャフトを使用する
	ダイヤモンドコアビットの故障	ダイヤモンドコアビットに損傷がないか点検し、 必要ならば交換する
	ギヤ部の故障	ヒルティリペアセンターに本体の修理を依頼する
モーターが停止する	本体が作動停止する	接触圧を小さくする
	電子回路の故障	プラグ接続、電線、漏電遮断機、主電源ヒューズを 点検する
	カーボンブラシの摩耗	ヒルティリペアセンターに本体の修理を依頼する
	エレクトロニクスの故障	ヒルティリペアセンターに本体の修理を依頼する
	冷却ファンの故障	ヒルティリペアセンターに本体の修理を依頼する
ウォーターシベルまたは ギヤハウジングから 水が漏れ出る	水圧が過大	水圧を小さくする
	シャフトシールの故障	ヒルティリペアセンターに本体の修理を依頼する
ダイヤモンドコアビットを チャックに挿入できない	コネクションエンド／チャックの汚れ または損傷	コネクションエンド／チャックを清掃し、必要ならば 交換する
作動中、チャックから水が 漏れ出る	コアビットがチャックにしっかりと ねじ込まれていない	しっかりと締め付ける
	コネクションエンド／チャックの汚れ チャックまたはコネクションエンドの損傷	コネクションエンド／チャックを清掃する シールを点検し、必要ならば交換する

穿孔システムの遊びが大きすぎる	ストラット上部とコラムピボット下部のネジの緩み	ネジを締め付ける
	コアピットがチャックにしっかりとねじ込まれていない	しっかりと締め付ける
	本体のロック機構の緩み	本体のロック機構を締め付ける
	レベル調整スクリューまたはクランピングスピンドルが締め付けられていない	レベル調整スクリューまたはクランピングスピンドルを締め直す
	キャリッジの遊びが大きすぎる	キャリッジローラーの遊びを調整する
	チャックの遊びが大きすぎる	チャックの偏心度を点検し、必要ならば交換する
	コネクションエンドの故障	コネクションエンドを点検し、必要ならば交換する

10. 廃棄



本体の大部分の部品はリサイクル可能です。リサイクル前にそれぞれの部品は分別して回収されなければなりません。多くの国でヒルティは、本体や古い電動工具をリサイクルのために回収しています。詳細についてはヒルティカスタマーサービスあるいは弊社営業員にお尋ねください。

ノロの廃棄

環境面について言えば、ノロを適切な前処理なしに、そのまま河川、湖水、下水施設、などに流すのは問題となります。地域で適用されている法規について当局に問い合わせてください。

前処理として以下を提案いたします。

- ノロを回収してください（例：産業用湿式バキュームクリーナーを使用）。
- ノロを固ませた後に固形物として建設廃棄物処理場に運んで処理してください（綿毛を加えると固形化が早まる）。
- ノロ（アルカリ、 $ph > 7$ ）から流れ出る水に酸性中和剤を加えるか、あるいは多量の水を加えて中性化させてから、下水に流してください。



本体は各国の技術法規に従って廃棄するか、ヒルティへ返送してください。

11. 本体に関するメーカー保証

保証条件に関するご質問は、最寄りのヒルティ代理店・販売店までお問い合わせください。

12. EU 規格の準拠証明 (原本)

名称：	ダイヤモンドコアドリル
機種名：	DD 200
設計年：	2003

この製品は以下の基準と標準規格に適合していることを保証します：

2016年4月19日まで：2004/108/EG、
2016年4月20日以降：2014/30/EU、
2006/42/EG、2011/65/EU、EN 61029-1、
EN 61029-2-1、EN ISO 12100.

**Hilti Aktiengesellschaft, Feldkircherstrasse 100,
FL-9494 Schaan**



Paolo Luccini
Head of BA Quality & Process Management
BA Electric Tools & Accessories
06/2015



Johannes W. Huber
Senior Vice President
BU Diamond
06/2015

技術資料：
Hilti Entwicklungsgesellschaft mbH
Zulassung Elektrowerkzeuge
Hiltistrasse 6
86916 Kaufering
Deutschland

ja



Hilti Corporation

LI-9494 Schaan

Tel.: +423 / 234 21 11

Fax: +423 / 234 29 65

www.hilti.com

Hilti = registered trademark of Hilti Corp., Schaan
Pos. 4 | 20150922



305562